

# 〇〇さんの、その心を知りたい!

記念すべき第20回目の事業主インタビューはこちら!

「Faith Farm」の水野尚哉さんです。尚哉さんとの出会いは僕が高校生の時に、なべくら高原の大根畑で。当時は頭がマッキンキンの尚哉さんでした。

「散々親に迷惑かけてきた人間だからさ(笑)」。その言葉通り、相当なヤンチャぶりが窺えました。ただ、その頃から少しの変わりもなく、尚哉さんはいつもやさしく、素直で、どこまでも純粹で。いつも尚哉さんの中にある熱いものを、目をキラキラと輝かせて僕に間かせてくれるのでした。

そんな当時の尚哉さんのことも思い出しながら聞かせてもらった今回のインタビューでは、不覚にも泣きました笑。尚哉さんの熱い想いの乗ったインタビューを、戸狩ののどかな田園風景を心に浮かべながらお楽しみください。

インタビューは2022.10.12 「ハゼ掛け」の日に。

「ありがとう」  
vol.20



フェイスファーム代表

**水野 尚哉**

in 飯山市

— Faith Farm — 農場名に込めた想い

Faith(フエイス)には、「信頼」「誓い」の意味があるとのこと。米のオーナー制度を取り入れている水野さんは、「米の品質はもちろん愚直においしさを追求して、オーナーさんとのつながりも誠実に築いていくことを原点にやっています。」とおっしゃいます。



信頼の米作り / 信州・飯山フェイスファーム

# Faith Farm

**K:** 尚哉さん、マジで忙しい中ありがとうございます！よろしくお願いします！（貴重な晴れ間の「ハゼ掛けの日」におじゃまして来ました！）

**N:** ついに来ましたか笑。(KENTIMESインタビューが)



「ハゼ掛け」真っ直中の水野さん。



**早速。尚哉さんの事業内容を教えてください。**

**N:** はい。お米を作って、多くの方に届けております。



**「オーナー制度」というものもやっているけど以前教えてもらいましたが。**

**N:** そうですね。ごく一部の田んぼなんだけれど、**自然環境を守るエリア**というかね、農業を使わずにやっていくようなエリアを選んで、小さい田んぼなんだけれど、約9枚の募集をかけて、今年はそのうちの5枚の田んぼのオーナーさんが来てくれました。

でね、作り方も**オーナーさんごとにヒアリングしながら「どんなお米を作りたいか」というのを**、その人の好みと予算に応じて、好きなお米を作るというものです。

その…設計から携わってもらって。それでやっぱり、オーナーをやるぐらいだから、みんな拘りたいわけよ。「農業は使えますか？使えませんか？」とかね。で、「農業を使わずにやると、除草作業とかも出てくんですけれど、それでもいいですか？」って。

基本的にオーナーさんには、田植えに来てもらって、あと稲刈り。除草のオプションのある方には、その期間も来てもらってという、そういうルールというか取り決めをしています。



オーナーさん田植え体験。田植え機に乗った後はみんな素足でアースング補植。これが気持ちいいと大好評。

「よっしゃ!!」



まあ、来れなかったら来れなかったで、今年のこもそうなんだけど、台風とかで予定の日がキャンセルになっちゃう時は、お米をそのままにしておくと、どんどん品質が落ちちゃうから、次の週末まで待てないこととかがあるので、そういう時は僕の方で代わりにやらせてもらうっていうことにしています。

**K:** 自然のものなので、刻一刻と変化してしまいますもんね。

**N:** そうそうそう。で、穫れ高も「最低保証」というのをまず付けて、1反歩(いったんぶ)当たり5俵というのを最低保証にして、その分の金額でまず契約を結びます。



## 「オーナー制度」の良さって どんなことがありますか？

**N:** えっとね。僕のうちは「**Rice Owner's Club(ROC)**」っていう名前を付けてオーナー制度をやってるんだけど、メリットとしては「ここが『俺の田んぼ』だよ」という。うん、そのかたち。

**K:** そんなの都会の人からしたら、きつと夢ですよ。

**N:** やばいよね。今までは「契約栽培」とか、「尚哉君のこのランクのお米を定期的にご送ってください」ということはあったんだけど、そのさらに上のステップみたいな位置付けで、「定期的にお米を送ってくれ」というよりも、むしろ「うちの米を作ってくれ。うちの米をここで作ってくれ。」っていうね。「じゃあ、オーナーと一緒に田植えしましょう！」ということ。

で、実際に起きているのは、家族連れで春、エンジョイしに来てもらっている感じで。うん。

「田植え」というのは、ただ名目の一つで、少しリラックスして…もう奥さんとか子どもを連れてみんなで旅行気分。だから田植えは、ついでで良いぐらいで思ってる、こっち(北信州)に来るきっかけの一つ。だからちょっと観光にも寄っているような。



**K:** マジでいい仕事してますね。

**N:** で、オーナーさんもどんどん埋まりつつあるけれど、もう来年の募集もして…それが、クチコミで「オレもやってみたい！」とか「私も始めてみたい！」とか。しかも、田んぼ1枚あたりで契約するから、ちょっと1人ではウェイトが重たい場合は、ダブルオーナー、トリプルオーナー。

例えば友達同士で契約して、その友達ファミリーで旅行に来るみたいな。

仲の良い友達同士で「田植えのイベント行こうぜ！」みたいなふうだね。

**K:** それ、めちゃめちゃぜいたくな田舎の楽しみ方ですよ。なんか、「田んぼを所有している」という時点で、お米を食べるときにその満足度も全然違うでしょうし。一番、田舎の良さを知れる旅ですね。



## 「オーナー制度」は、どこか参考にしたところとかあるんですか？それとも尚哉さんが思いついたんですか？

**N:** 思いついた！

**K:** え！それ、特許取ったほうがいいですよ！

**N:** ああ、でもね、調べると結構こういう「オーナー制度」みたいなものを行っている農家さん、結構いる笑。

**K:** でも、それを尚哉さんが自分で考えつくって凄いですよね。

**N:** あのね、ずっと定期便の上を考えたの。「プレミアム定期便」にしようと思っていて。えっとね、「うちのコメはこの田んぼから来てる」というのがわかればいいな、と思っていて。聞かれたことがあるの。

うちって今、お米のランクが3種類あって、例えばそのうちの、「『蛭』ってどの辺の田んぼのお米なのって？」って。

そういうような質問があったときに、「ああ、そうか。定期便の購入者さん達は、田んぼの場所まではわからないのか…俺が作っているっていうのはわかってはいるけど、そこまででもない。」って思った時にひらめいた。「ああ、これ、ちゃんと田んぼの場所を伝えるべきだなあ」と思って。

例えばさ、謙がイクラの定期便をとっているとするじゃん？そのイクラがどの湾で、どんなシャケから取れているってわかっていたら面白くない？



**K:** 面白いですし…気分がいいですね。

**N:** ねえ。なんかプレミアな感じもするじゃん？

しかも生産者側からしたら「その人のためだけに」作るんだよ。その水槽は。

だから、**オレがこの田んぼをやってる最中は、そのオーナーさんのことだけを考えて…なんつうの、こう…片想い状況。**笑  
「今何してるのかな？」とか「オーナーさん、このお米を人に送りたいとか言ってたけど、どんな人にあげるんだろうなあ…」とかって。

そうやって何かいろいろ飛躍しながら考えて作業していると、**なんか、こう…すごい良い想いが伝わるお米に育ってってくれるかなあ**と思う。うん。

だから、そういうオーナーさんが、俺のキャパでは9枚まで？あんまりたくさんいても、数のほうに引っ張られちゃうから。

**K:** その辺のこだわりが、また尚哉さんらしく「ちゃんと気持ちを込めてる」というのがよくわかります。

**N:** (ハハハハハ) 恥ずかしいね。ありがとう。

だってさ、オーナーさんからしたらさあ、今のオーナーさん東京だったり、遠いところだと京都からオーナーさんになってくれている人もいるし…あと地元の飲食店さんだったりとかね。飯山のカレースパイスの「山路」さん(@ curry\_spice\_yamaji)も元々、地元さんに興味があったみたいで、今年の収穫した分から、うちの708米を使うということで、

オーナーになってくれたりとか。

**K:** そうなんです！それはお店からしても「自分ちのお米です」って言えますもんね。カレーの価値も美味しさも上がりますね。

**N:** へへ。でも、カレーを邪魔したくないよね。カレーを引き立たせるお米であって欲しいなと。**お米ってやっぱ主食かもしれないけれど、なんだかな…「おかずを美味しく食べられるお供」**みたいな。俺の感覚だと、ご飯のお供じゃなくて「お供のための、お供」みたいな笑。おかずのためのお供であって、**なんか、そこに常にあって欲しいなって感じ。**

**K:** めっちゃ謙虚じゃないですか。まさに尚哉さんみたいな笑。決して出しや張らずにっていうのが…。

**N:** わかんないよ。言ってるだけかもよ笑。

**K・N:** (ハハハハハ！)

**N:** 実際もう…4、5年になるかな？このオーナー制度を始めてから。やっていて感じたのが、オーナーさんの友達を呼んできたり。仲の良い家族とね、一緒に来たりする…で、その時にそこでまたファンが出来たり、新しいオーナーさん呼び込んでくれるっていう影響が今出始めてるんだけど、その中で、お米を作ったことのない方もたくさん来てくれて「**初めて田植えした**」とか「**初めて田んぼの中に素足で入った**」とか「**初めて鎌で稲を手で刈って**



『ザクツ』って。

なんかね、それをみんな言うの。「この『ザクツ』っていう感覚が**すごい新鮮!**」って。

だから俺も前もって言うの。「**大地ですっと何ヶ月か育ってきたものを、切り離す儀式なんです。**」みたいなね。(ハハハハ！)

**K:** いい食育ですよ～！

**N:** ねえ！みんな小さいお子さん連れて来て鎌持たせてやるわけよ。「**大地の恵を切り離していただく瞬間ですよ～。ぜひ心して稲刈ってください～。**」みたいにね、言うんだけど。

で、なんかそれをやっているときに、いまケンが言ったみたいに、これって…「**食育**」とか、これからの食糧危機になった時に自分たちで作るっていう「**知恵**」とか「**知識**」を…それを伝えることができているなと思って。だから、うちじゃなくてもいいんだよ？その…ここで培った経験とか「**やったことがある**」というその実績を持って、これから困難な時代を迎えた時に、**北斗の拳**みたいな世界じゃないけれど笑。

種籾があって、「**さあ、どうする?**」って**なった時にちょっとした知識があればさ、なんか生きながらえることができるんじゃないか**と思ってみたい。

水田に入ることすら、ためらう人たちが多いと思うんだよ。けど、みんなでワイワイ、キャツキャツって泥んこまみれになってやることで、その最初のハードルを越えるわけじゃん？そうなったときに面白いなあって。



# Owner System

# Obsession

「708米」こだわりのポイントを教えてください!



**N:** オレがお米を始めるきっかけとなったところも絡んでくるんだけど…元々は俺、農業法人で22歳の頃からお世話になって働いていたんだけど、そこでお米の「イロハ」を学んだんだよね。全くの素人の状態から。

その時にお米だけでも色んなの方がいるんだっていうのを知って。「ただ植えるだけじゃねえんだ!なるほどねえ」みたいな笑。

で、その中で、ウチもじいちゃんがね、実家の田んぼ2枚(4反歩)を、そろそろかな…って時に、「まあ、おじいも高齢だし、そろそろ俺が代わるよ」って。世代交代して。

28歳の時かな。それまでは、ずっと「慣行農法(化学肥料を使った、栽培しやすい農法のこと)」でやってきたんだけど、農薬をなるべく使わない方法メインでやってみようと思ってね。

そうやって俺が自由に作れる田んぼが2枚できたわけで、せっか

くだし、美味しいお米が作れるエリアだっていうのは知っているから「美味しい以上のもの、なんかねえかなあ。」ってワクワクしながら、どんな栽培方法にしようかなみたいになって思ってたんだけど、ちょうどそれと同じタイミングで両親が病氣して。

で、当時オレまだ20代だったし…散々親に迷惑かけてきた人間だったから笑

**K:** 存じております。  
(二人:VVVVVV!)

**N:** 「ちょっと待て。今いなくなっても、オレ後悔しちゃうな。今できる何かないかな」って考えたときに目の前にお米があって、出会ったのが「ピロール農法」だったの。

その時の俺にとっては、「弱アルカリ性」だったり「身体にやさしい」ってどういうこと!?って、まさに目から鱗だったんだよ!だから、その時の親の状況を見て「そんなのがあるんだったらやってみたい!」ってことで「ピロール農法」をやり始めたんだよ。で、それが最初は全然うまくいか

なかったし(要はね、土の中の微生物が元気出しすぎちゃって、通常の1.5倍もお米が穫れちゃったんだよ!笑。

だから、当然お米一粒あたりの品質は落ちるんだよ。

で、紆余曲折あって、3年目に思い切って、完全に肥料を使わずにやってみたら、今度は全然お米が穫れなかったんだけど…ただ、その年のお米が、めっちゃめっちゃ良かったんだ!美味かった。うん。農薬も一切使わずに、除草機でひたすら田んぼの中を歩き回ってというね。

まあ最初は色々言われたね。「お前騙されてないかとか?」とか笑われたりね。

でも俺の中では、当時選べる選択肢の中で、栄養価を高める「ピロール農法」それしかなかった。で、その年のお米を、会社の人に「お前のお米、めっちゃめっちゃよ良いからコンクールに出してみたら?」って言われて、興味ないけど(別にコンクールのためにやってたわけじゃないからね)出してみたんだよ。

そしたらそれが…金賞!(世界最高米:原料米認定)と。

2021皇室新嘗祭献上米を一粒づつ選別しました



田んぼを守り続けてきた「じいちゃん」と



精白米一升(約1.8kg)を献上



合鴨とアヒルによる草食隊。彼らの排泄物はそのまま稲の養分になります。



寒暖差のある恵まれた環境を生かした米作りを追求



亜弥さん(尚哉さんの奥様)の家族は、毎年夏休みに大阪から飯山へ顔を見せに来てくれます

**K:** ヤバイ話ですね。そう…なるべくして、そうなった、というか。

**N:** そうだね。あのきっかけがなかったら俺は今頃どういってお米作っていたのかなって思うよ。今でも、その当時の想いというのがずっと繋がっている。テーマがずっとそこなの。「**家族の健康と笑顔**」。家族に対して作るお米を少しおすそ分けしてるイメージで、いま事業展開してるので。だからこそ、当初はネット販売はしていなかったし、口コミで知り合いとかお友達とか「**顔の見える人**」だったり、新規で出会いがあっても、ちゃんと電話もするし、なんなら顔見せに行くしね。ROCもそうで、**ちゃんと、ひとりの人と真正面から向き合って、お付き合いする**っていうのがずっとテーマなんだよ。うん。



### 「Faith Farm」の名前の由来もそのためですか？

**N:** まさにそこで。フェイスっていうのは言葉で言うと「**顔の見える**」なんだけれど、スペルで書くと「**faith**」で、**(誠実)**っていう意味があって、それでこの「faith」にしたんだけど、**人にもそうだし、お米にも、自分自身にも、最初の気持ちを忘れちゃいけない**っていう、自戒の念から笑。

オレほら、今まで親や家族に迷惑かけたヤツが「**これからどうやって返していくんだ**」っていう、その姿勢を自分にちゃんと見せるって意味も含めてね。

**K:** 素敵です。ブレないですね～。



### どうの方が「708米」を定期購入されていますか？

**N:** 食にこだわる人は多いよね。例えば、ちょっと、**お子さんがアトピーを持っていったり**とかっていうお父さんお母さんが選んでくれたりとか。もう、まさにそれで。ピロール農法ってそういう方におすすめ出来るものなので、最近になって**アスリートや芸能人の方(格闘技界、プロ野球選手)**も増えています。(かなり有名な、あんな方やこんな方まで利用されている！)



東洋ライス「世界最高米」原料米に認定。(平成27年・28年度産)  
※「世界最高米」は東洋ライス株式会社の商標

**K:** いや、まさか自分ちの前の2枚の田んぼからこんな風になるなんて思わないんですね。尚哉さん持ち前の好奇心があってこそですよ。



### 「尚哉さん家の休日」を聞かせてください

**N:** いまね、休日は正直、もう遊べないというか…まあなるべく取るようにはしてるんだけど、なかなか出来ていなくて。

**K:** そうですね。でも、子どもたちからしたら、親が一生懸命田んぼで働いてる姿ってめちゃめちゃいいと思いますよ。

**N:** そうだね。たまに子どもたちが田植えとか、稲刈りの田んぼを見に来たりとか、出来る場所は意識して、一緒に農作業するようにはしてきていて……実はこの間、短冊にね「**おおきくなったら、おこめのおしごとがしたい**」って書いてあって。

**K:** 美しい。泣けますね。

**N:** いや～もう嬉しいなあ…。つて。そういう背中を見てくれるのかな～って思っ。

**K:** やっぱり一生懸命だし、楽しそうなのが伝わってるんですね。

**N:** 今みたいに稲刈りの時期って、わりと朝はゆっくりできるんだよ、朝つゆもあるから。だから、みんな朝ごはんを食べた後にオレ  
(ノ)



**N:** ( \ ) が保育園に連れて行くんだけど「パパ、今日もお米のお仕事だよな? がんばってね!」って言うてくれてさ。「嬉しいな~!」って。

**K:** 泣ける。

**N:** 泣いてんじゃん! 笑。インタビュー中に泣いてる~! 笑。

**K:** いやあ。これはめっちゃいい話です。ありがとうございます。

**N:** だから……俺は両親のためにお米を作ってきて、そういう想いを、今度は龍哉(長男)たちが龍哉たちなりに感じてくれているのは嬉しいし、何より亜弥ちゃん(奥さま)もね、ずっとオレがいない間、子どもたちも見てくれてるからさ、おかげでこうやって出来てるから…なんか、ありがたいって言うかね。

**K:** それは本当ですよ。農家の奥さんで大変だと思う。

**N:** 農家の旦那。笑(僕のこと指して)



### 「これからのFaith Farm」を聞かせてください

**N:** 今、オーナー制度を通じて色々な人に関わってもらっている状況で、ここのエリアって、**農業も使っていないくて虫もたくさん出るんだけど、環境保全にも一役、担ってもらって状況。** こういう風に田んぼをやることで、**虫の生育環境を維持できていたり。** 方や、残留窒素とか硝酸態窒素とかね、水を汚してしまうものを極力使わないことで、川に流れ込む余分な肥料分とかで…その川が結局海に行くじゃん。

で、赤潮の問題になったりとか。

「**地球全体の健康**」って考えた時に、**自分のいるエリアだけでもなるべく健康体でいられるように。** そして、もっと言うと山。俺は、林業を凄くリスペクトしてるんだけど、**山の健康にもこれからどんどん注力していきたい**なと思っていて。

戦後、杉がたくさん植えられて、今燃料革命が起きて…杉が今どんどん大きくなっていて、管理も離れちゃってるんだけど(その杉の花粉が今、猛威をふるってるんだけど)、**結局、人間が「時代」のためにやってきたことが、今になってまた人間を苦しめちゃってて。**

今、スギ花粉ってめちゃめちゃ辛いじゃん? でも、先代が植えたものなんだよ。でも先代を責められないじゃん?

当時は貴重なものだったんだよ。「早く家を建てたい」とか「日本を再建させたい」とかって必死だったからね。

それで今、林業の人たちは なんとかしたいって、命をかけて仕事してるわけだよ。危険な仕事だからさあ。そういうことも含めて、**山からしたら、その次に位置するのは里山風景の農業。だから俺は俺に出来ることで、この土地を守っていききたい**なあっていう想い。自分たちのフィルターだけではなくて、「**地球全体**」とか「**大地全体**」っていう目線で、これから考えていきたい。

そういう感覚をね。**いろんな人がもっと里山を守っていけるような、そういうことをもっと伝えていきたい。** 一つ、名前を付けるとするなら、自分は今、お米作りをもちろん真剣にやってるんだけど、お米づくりを通じて「**里山コミュニティビルダー**」っていう、そういう存在として、これからやっていきたいと思う。

**里山に人が来てくれることで、それが観光にもなって、ここが潤ったり、もっと言うと、将来、農業をやりたいという人たちのきっかけになったり、**という感覚を持っています。

(インタビュー終わり)



To the Future ……



### 【インタビューを終えて……】



やはり期待どおり、アツイ想いと好奇心に満ち溢れた尚哉さんのお話は、いつも僕の心を驚掴みです。なぜそんなに引きこまれてしまうのか…？それは、常に尚哉さんのお話には強烈な拘り“尚哉ism”が組み込まれているからに他なりません。オーナー制度についても「俺のキャパでは9枚まで？…あんまりたくさんいても、数のほうに引っ張られちゃうから。」というその言葉通り、自分の想いを一人ひとりに面と向かって200%届けないわけにはいかないのです。

それが僕らの心を動かすのです。約20年前の大根畑で、高校生の僕に見せてくれたあの笑顔が少しも変わらず、人に対しても、地球に対しても、いつも優しい尚哉さんが僕は嬉しかったです。これを書いている冬の今、戸狩温泉スキー場の星空の下、ピステンの運転席で、また新しいアイデアがどんとと飛躍し、一人でニヤニヤしてる尚哉さんの顔が浮かんでなりません。

Instagramフォローも  
よろしくお願いします!!

信頼の米作り／信州・飯山フェイスファーム

**Faith Farm**

〒389-2411 長野県飯山市豊田5463

TEL : 080-4009-9994



**水野さんからのお知らせ!!**

自分だけのオリジナル米を作る  
**新規オーナー募集中**



お問い合わせは、  
フェイスファーム  
まで!

2023年分は、残り3件！3月20日(月)まで



ホームページ



ホームページ ▶ <https://faithfarm.jp>



バックナンバー

# ご契約者のインタビュー

河野謙のホームページでご覧いただけます

ご契約者の中で「野沢・飯山をメインに事業を行なっている方」に向けてインタビューをさせてもらっています。お客さま同士ががり合い、「地元がより盛り上がっていったらいいな〜」と思っています。



「ぼっぼ動物病院」  
松川 恵さん



「有限会社 丸見屋商店」  
河野 晃久さん



「リラクゼーションNemu」  
福澤 美里さん



「nozowa green field」  
河野 健児さん



「やよい農園」  
滝沢 弥生さん



「and sugar」  
高坂 沙也香さん



「Ambis」  
福澤 龍一さん



「翻訳家」  
辛島・ジェニファー・フランセスさん



「POWERDRIVE R117」  
庚 敏久さん



「BODY CARE SALON WISH」  
白石 里香子さん



「タイコア合同会社」  
ロビンソン・ガードナーさん  
奈津子さん



「山本園」  
山本 亮介さん  
愛さん



「野沢出張マッサージ  
サオリセラピー」  
齊藤 沙織さん



「Paint Up Sugar」  
佐藤 亮一さん



「タイ料理 クアタイ」  
市川 良樹さん  
史さん



「ひぐらし農場」  
木内 晴基さん  
(妹) マミさん



「合同会社  
MonkeyBusinessCO.」  
中嶋 サマンサさん



「Snowboarder's base  
NEO BAR」  
牧野 千尋さん



「ひなたやまデザイン」  
高野 理恵子さん



「Faith Farm」  
水野 尚哉さん

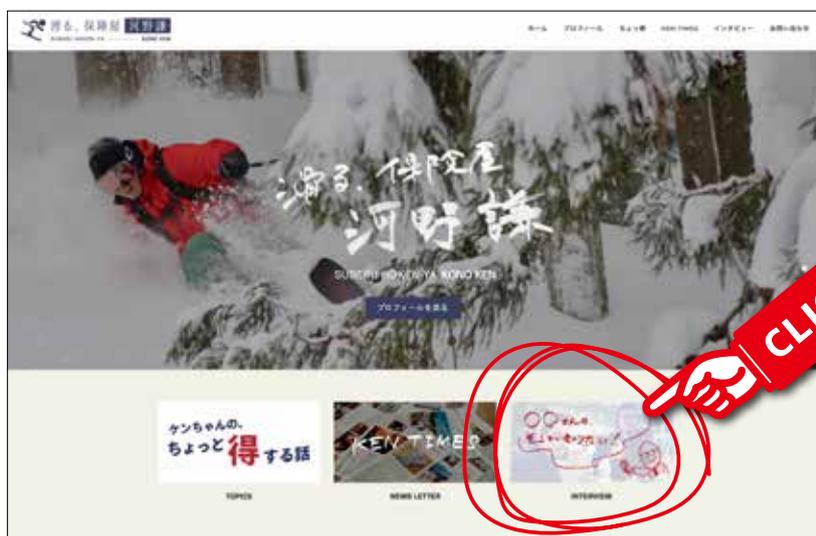


Coming soon

お楽しみに!!

河野謙のホームページ

<https://konoken.com>



CLICK!!

皆さんのインタビュー  
バックナンバーは、  
↑ホームページから  
ご覧くださいね!

# 流れる、F1 河野 謙

Kono Ken



## 河野 謙 (こうのけん)

- 1987年7月10日生まれ(卯年・かに座)
- ファイナンシャルプランナー
- 双子(弟は連)
- A型
- 三児の父(長男:2016.7/長女:2018.12/次男:2020.10)
- サイグラム/M10
- 動物占い/感情的なライオン・ゴールド
- 野沢温泉村在住(横落のFujiyoshi. ずっと地元民)



### 【学 校】

- 野沢温泉小学校
- 野沢温泉中学校
- 飯山北高等学校
- 立命館大学(経済学部・国際経済学科) ずっとスキー部(アルペン)

### 【性 格】

**楽観主義者。**小さい時からそうだったわけではない。大学ぐらいから海外に行ったり、色々な友達と付き合いの中でそうになっていったと思う。**判断は早い方。**ただし、睡眠不足に陥るとあらゆる面でうまくいかなくなってしまう。仕事も遊びも、同じことを繰り返してその精度が上がっていくことに喜びを感じるタイプ。

### 遊びや日課

- スキー・スノーボード。シーズン中は週2ぐらいのペース。
- サーフィン。直江津がメイン。力強いハワイの波が忘れられない。
- 中学校の時は北竜湖でヘラブナを釣ることが何よりの楽しみだった。現在は溪流釣り。
- ゴルフ(2020年からハマリ、2021年現在、100前後をウロチョロ。斑尾タングラムがメイン。)
- サウナ。ちょっと行かないと禁断症状が出る。基本は木島平パノラマランド
- 飲酒はほぼ毎日。夕飯時には欠かせない。(ビール、日本酒、ワイン、ウイスキー)
- 睡眠重視。少しでも眠気を感じたら、可能な限りどんなことよりも最優先してまずは眠る。
- 26歳から、お祭りで猿田彦の笛をやっている。
- 消防団員。第一分団第二動力班



### 好きな作家

村上春樹、池波正太郎、浅田次郎、野田知佑、椎名誠、伊集院静など。特に村上春樹は相当の回数読んでいる作品が多い。

### 好きな音楽

特に好きなものは90年代日本語ラップ。「BUDDHA BRAND」「キエるマキユウ」に関しては博士。ユーミン、Hi-Fi Set、ビートルズ他、ジャズもクラシックも好き。



BUDDHA BRAND

### ランクル

ランクル80(1992)。妻はランクル60(1981)に乗ってます！二人とも、だいが愛着湧いてます。



### 仕事の変遷

スキーだけやっていた大学生活だったので、当時「こんな仕事かしたい！」というものがなく(スキーで稼いでいくほどの実力も自信もなかった)、4年のゴールデンウィーク頃から就活をスタート。

その頃、株やFXをやっていたということもあり「なんとなく金融が面白そうかな」という思いと、長野県出身のスキー部の先輩が、卒業後そこで活躍していることを知っていたので、地元の金融機関である「株式会社 長野銀行」に入行。

入行後一年は、掃除、雪かきの毎日。ちょっと退屈だったが、雪かきに関しては豪雪地帯・野沢温泉出身の実力をここぞとばかりに発揮し、銀行の敷地内だけでは物足りず、勝手に近所の商店の雪かきまでしていた。

そして楽しくお茶をいただき、預金までしてもらっていた。お客さんと心が通じる、「河野君だから」で任せてもらう。これが営業か……と、その時に思った。

2年目からは松本の支店で営業係。預金・住宅ローン・投資信託・保険を主に販売。最初はどのようにいいかわからず、お客さんの家でお茶をもらってばかりいたが、ある日突然自分の中で「何か」が解り、そこからは営業が楽しくて仕方なくなった。

お客さんは「その先に何を求めているか。」これが本質。

2014年(銀行4年目26歳の時)長野銀行出身の、尊敬する先輩に声をかけてもらったことがきっかけで、現在の会社に転職。ずっと地元だけで仕事ができる。本当に自分が好きで、お客さんにとって100%いいものだけを案内できるということが最大の魅力だった。

現在は「KEN TIMES」も発行。地元の事業主のインタビュー、お得な金融情報、日々の日記を掲載している。お客さん同士が繋がりが、地元がどんどん盛り上がっていくことが何よりの喜び。

